

第 1695 回 (10 月 29 日)
ラテンアメリカの農業生産性の変化
——1980 年代を中心にして——

明 石 光一郎

ラテンアメリカ経済は 1980 年代に未曾有の経済的危機を経験した。1980 年代はしばしば「失われた 10 年」と形容される。経済危機の発端となったのは 1982 年の累積債務危機であるが、それによりラテンアメリカ諸国で 30 年以上にわたってとられていた輸入代替工業化政策は破綻し放棄された。経済は自由化され、輸入規制の廃止、関税の大幅引き下げ等が実施された。かかる経済自由化によりラテンアメリカ諸国は 1990 年代になりようやく、80 年代の停滞からの回復がみられるようになった。本報告では 1980 年代のラテンアメリカの著しい経済危機が農業部門にいかなる影響を及ぼしたか検討を試みた。データとしては FAO の統計資料を使用しマクロ的な国際比較を行った。このような分析はもちろんラテンアメリカ諸国に共通して内在する国内的諸矛盾（すなわち農業部門の著しい二重構造）や各国の個別的な諸事情を考慮していないという問題をもつ。しかし本報告はあくまでもラテンアメリカをマクロ的にとらえるという意味での一次的な接近であると位置づけられる。

また、ラテンアメリカとは対照的に東アジアは 1980 年代にめざましい経済成長を実現した。そこで本報告では東アジアを含むアジア諸国の農業をとりあげラテンアメリカと比較考察を行った。

以下、分析に用いた変数および資料を簡単に説明しておく。農業生産については、各国は異なる農産物を異なる価格体系のもとで生産しているので、国際比較を可能にするために、それらの農産物を共通の単位に変換しアグリゲートした。本報告では、ラテンアメリカについては FAO の Production Year-

book に記述されているラテンアメリカ地域のウェートをを使用して農産物を小麦単位 (Wheat Unit) に変換して、国別の集計量を求めた。アジアについては同様の方法で行った山田三郎の推計値を使用した。つぎに FAO の統計資料 AGROSTAT に記載されている農業生産指数により期間を延長した。農地は耕地と永年牧草地の合計で定義される農用地を使用した。労働は農業労働者の男女合計を用いた。肥料は、窒素、リン酸、カリの加重合計を使用した。トラクターは使用台数を使用した。データの出所は基本的に FAO の AGROSTAT である。

国際間の比較分析の結果、以下のことが明らかになった。80 年から 90 年にかけてラテンアメリカでは土地生産性、労働生産性の成長は僅かであった。土地当たり肥料投入も僅かしか増加しなかった。労働当たりトラクター投入は 2 割以上増加した。同期間にアジアでは土地生産性、労働生産性、土地当たり肥料投入、労働当たりトラクター投入のいずれも、ラテンアメリカを上回る上昇を示した。

つぎに農業技術の変化を調べるために生産関数を計測した。その結果、ラテンアメリカでは経常財使用的（土地節約的）技術変化がこの期間に生じなかったこと、機械使用的（労働節約的）技術変化が生じたことがわかった。アジアでは経常財使用的技術変化と機械使用的技術変化が生じたことがわかった。

最後に両地域の農業生産の成長の要因を調べるために成長会計分析を行った。その結果、ラテンアメリカでは機械の投入増加により生産成長の約 34% が説明できること、アジアでは経常投入財の投入増加により生産成長の約 52% が説明できることがわかった。